舞鶴小学校 学校だより	友の手を引く	２０１９年度 １１月２１日 文責 校長　渡邉　豪

※学校だよりのタイトル『友の手を引く』は，甲府市出身の宮沢和史さんに作詞作曲していただいた，舞鶴小学校の校歌の歌詞の一節です。

児童会チャレンジ集会大成功

１１月１３日に児童会の最大行事である「児童会チャレンジ集会」を開催しました。全校児童が１２のたてわり班に分かれ、各たてわり班ごとに企画・準備した「アトラクション」をたてわり班の半分が運営し、残り半分が他のアトラクションをまわりチャレンジしていく、という内容の集会です。児童会役員が１０月初旬から企画などの準備に取りかかり、各たてわり班も「児童会たてわり班活動」で入念な準備を行いました。各たてわり班が企画した「アトラクション」は１２あります。紹介すると【ストラックアウト、風船リフティング、しょうがいぶつリレー、脱出ゲーム、ぞうきんリレー、？ボックス、ジャスト２０秒、にらめっこ対決、きょうふの館、フリースロー、ほうきバランス、君の絵にかかっている】です。それ以外に児童会本部が企画した【暗号学園】があり、全１３アトラクションが実施されました。「アトラクション」の内容は、たてわり班で協力しながらチャレンジするもので、１年生から６年生という６学年の差があるグループが、交流を深め、上級生がリーダーシップを発揮するのに適した内容だったと思います。

今年度の「児童会チャレンジ集会」では、学習指導要領の児童会活動の目標である「児童会活動を通して、望ましい人間関係を形成し、集団の一員としてよりよい学校生活づくりに参画し、協力して諸問題を解決しようとする自主的、実践的な態度を育てる。」に迫るため、昨年度までは６年生が、アトラクションの運営と１年生から５年生までをリードしながら各アトラクションをまわっていたのを改善し、１年生から５年生にもアトラクション運営の分担をし、活躍の場を用意しました。

慣れない様子で受付を行った１年生、自分たちのアトラクションにより多くの体験者を呼び込もうと、学校中を周りながら呼びかけを行った２・３年生。得点係を行った４年生。アトラクションのルール説明を行った５年生。全体運営と下級生の指導を行った６年生など、各学年がそれぞれの分担に一生懸命取り組みました。「おわりの会」の感想発表でも「心配だったけどしっかりできた。」「やるまでは自分にできるか不安だった。」などの感想が聞かれましたが、立派にやり通し、自分自身の経験を増やすことができま

した。特に６年生を中心に、下級生のことを常に配慮しながらアトラクションの運営を行い、上級生として下級生をリードするという経験が、また一つ自分たちを成長させるものとなったと思います。子どもたちが楽しみながら、精一杯活動した集会になったと思います。

地域の方々に感謝の思いをお伝えしました

１１月５日に「感謝する会」を行いました。「感謝する会」は、各地域の見守り隊の方々、学校応援団の方々、各自治会役員の方々、各自治会の児童にかかわる諸団体の方々、学校評議員の方々等、日常的に本校児童がお世話になっている地域の方をご招待して、日頃の活動に対する感謝の思いを伝えるために行っている会です。

「感謝する会」当日は、午後１時５５分に開会し、内容としては１，２年生、中学年、高学年の「朗唱」の発表から始まりました。１年生の発表は「かく」、２年生の発表は「がぎぐげご」、中学年の発表は「かっぱとかえる」、高学年の発表は「論語」でした。どの発表も全て暗記し、大きな声で堂々とした発表をすることができました。その後、全校合唱で「この星に生まれて」を披露し、最後に全校児童を代表して児童会長が「感謝の言葉」を述べて閉会となりました。

平日のお忙しい時間にもかかわらず、たくさんの方にご参会いただきました。日頃の感謝の念を伝えることの大切さと共に、児童にとって、日常的に様々なご支援をいただいている方々の活動を改めて想起することはとても大切な機会ですので、今後も継続して行っていきたい活動です。地域の方々に見守られながら、この地域で成長していく子どもたちです。今後とも、引き続き温かな目で見守っていただけるとありがたいと思います。

小中連携あいさつ運動実施!!

１１月１８日から２２日まで、「小中連携あいさつ運動」を実施しました。この取組は、日常的に行っている小中連携事業（舞鶴小、池田小、西中で連携事業を実施）の一環で、西中の生徒会役員３名が朝来校し、本校の児童会役員と一緒に児童玄関前で登校してくる児童にあいさつを行う取り組みです。日頃、本校児童や職員によるあいさつ運動は行っていますが、本校を卒業した中学生が共にあいさつ運動に取り組み、あいさつへの意識を醸成することがねらいです。初日こそ多少ぎこちない雰囲気はありましたが、２校の役員で積極的にあいさつを行い、登校した児童も元気にあいさつを返していました。今後も小中学校の連携事業がさらに充実していくよう、様々な検討を行っていきます。